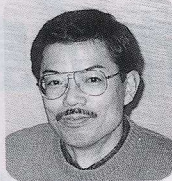


日本語に アルファベット を導入する?

総合科学部
英語講座



山田 純

PROFILE

(やまだ・じゅん)
◇昭和26年山口県生まれ
◇「難読学」という萌芽的研究に従事
たとえば英文では、日本人すべてが難読状態にある
◇なぜか
◇日英語の読解過程研究だけでなく、関連科学の学際的研究が求められる

名誉教授奥田九一郎先生は、本誌25期2号で「日本語にアルファベットを導入すべし」とのべておられる。日本語は漢字、平仮名、片仮名の3種類を駆使するユニークな言語である。それにアルファベットをくわえよのご指摘である。これは心理言語学の重要なテーマのひとつでもあるので、その分野を勉強しているひとりとして一筆啓上したい。

1) どの語をアルファベットで表記し、そのほかはどうするか。それをさだめるには膨大な作業を要する。「America」はよいかもしれないが、「Germany」は日本語ではない。「ドイツ」はどうなるのか。「イギリス」はどうか。カタカナ表記とアルファベット表記では発音のギャップのおおきいものが多い。たとえば、プリンとpudding、カッターシャツとcollared shirt(えりつきのシャツ)、ウールとwool、ブルースとbluesなどである。

外国語からことばを借用するばあい、原料のままでは使用できない。日本語の音韻・書記・意味体系のふりいにかけて、加工されたものが定着する。原料をまるごとつかうのはバイリンガルたちである。モノリンガルがそれをまねすれば、消化不良をおこす。

2) アルファベットの導入は、すでに定着している何千何万のカタカナ語を死語にすることを意味する。ごく少数ののぞましくない語(たとえば、差別用語)でさえ、それはむずかしい。のぞましくないカタカナ語をすべて死語にするのは不可能であろう。

もしどちらを使用してもよいのであれば(現在の状況はそれにちかいか)、ほとんどみんなカタカナ語を使用する。それは、ただただアルファベットがむずかしいからである。

3) アルファベット表記の学習はむずかしい。その理由は省略するが、アルファベットで「カリフォルニア」がかかる広大生は3人にひとり、「ヨット」は6人にひとりくらい。「リズム」はそれよりもはるかにすくない。そのような語のくわえは漢字とおなじくらいおおい。

4) 外国語教育との関連では、そもそも自国語の正字法をさだめるのに、外国語しかも英語だけを考慮することに無理がある。また、かりに「ロンドン」を「London」、「ローマ」を「Rome」と表記するようになったとしても、日本人が/r/と/l/を弁別できるようにはならない。

発話の知覚はそれ自体を訓練すべきである。適切な訓練をすれば、臨界期(思春期ころ)をすぎてもかなり知覚がするどくなる。

5) あまり重要な問題ではないが、アルファベットの導入は、よこがきを前提にしている。新聞や週刊誌の編集部や読者がそれに賛成するかどうか。(本稿は特別の許可をいただいた!)

6) 美的問題もある。「広大フォーラム」はうつくしい(?)が、「広大Forum」は、みにくい。それがうつくしくなるためには、相当の修行が必要だ。アルファベットを導入するための素地はローマ字である。「Hirodai Forum」は、みにくい。

一方、奥田先生よりもっとラザカルに、漢字とかなを全廃してローマ字を使用せよという意見もある。漢字を上代の無用の遺物のごとく痛烈に批判する学者が国内にも海外にもいる。こんなふるびた道具の使用法を学習し、使用しつづけていては、日本にあかるい未来はないという。

そのひとりが国立民族学博物館の前館長梅棹忠夫である。ローマ字が無理なら、せめて訓よみ漢字だけでもひらがなにすべきだという。その理由をくわしくのべる紙幅はないが、本稿はその方針にそってかいてみた。印象はいかがであろうか。

ともあれ、アルファベット導入もさることながら、わが日本語の書記体系はさまざまな問題や欠陥をはらんでいる。その解決なしに輕輕に書記体系をつつことはできない。しかし、それが解決できる天才的な言語学者や心理言語学者がいまだ登場せず、ずるずると今日まできたというのが現状であろう。

【参考文献】

- 梅棹忠夫(1987):『あすの日本語のために』、くもん出版
- 梅棹忠夫(1988):『日本語と日本文明』、くもん出版
- Unger, J. M. (1987): *The Fifth Generation Fallacy: Why Japan Is Betting Its Future on Artificial Intelligence*. New York, Oxford University Press.

#学内科研の配分決まる

十一月三十日の部局長連絡会議で、本年度の学内科研の配分が明らかになった。委員会関係が六件、部局単位関係が十六件の合計七一九〇万円。今年から始まった若手研究者枠では十五件(一件約一〇〇万円)に一四九〇万円が配分されることになった。

広大生協ベストセラートップ10

- (一)私は別人(上・下) シドニー・シエルダン アカデミー出版
- (二)断筆宣言への軌跡 筒井康隆 光文社
- (三)パブリカ 筒井康隆 中央公論社
- (四)全国アホバカ分布考 松本修 太田出版
- (五)マイソンの橋 R・J・ウォラー 文藝春秋
- (六)マーフィーの法則 アーサー・ブロッック アスキー
- (七)象が空を 沢木耕太郎 文藝春秋
- (八)日本改造計画 小沢一郎 講談社
- (九)驚異の小宇宙・人体II 脳と心 1 NHK取材班 日本放送出版協会
- (十)日本の論点 '94 文藝春秋編 文藝春秋 (生協調べ)

次号(三月一日号)予告

- 特集 I 卒業生・修了生を送る
- II 退職者は語る
- フォーラム
- 学長講演

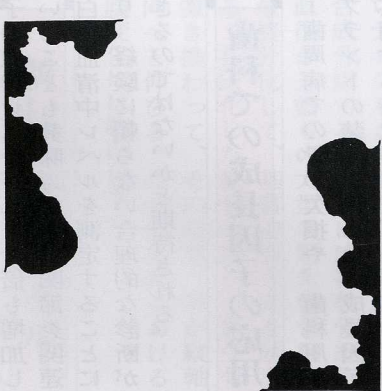
「新しい大学像—広島大学の役割—」
●「水底の歌」を掘る(仮題)
●「お説ひ」

本誌三号の松田文字論文中の教式ミス「ハ」の誤りです。
「ハ」の原因は、フォントコピーにより白字がつぶれ、発見不可能だったことにより、再発防止措置をとりました。著者と読者にご迷惑をかけたことをお詫びします。

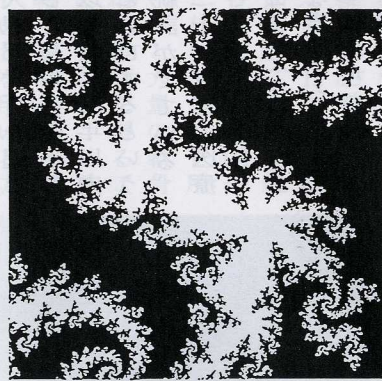
フラクタル図形の例

近頃流行の「フラクタル」から話題を選んでワイルの文章の意味を探ってみよう。

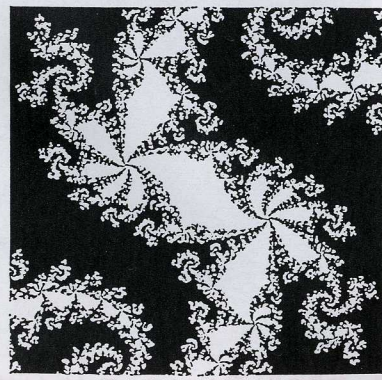
サイエンス社から出た淵上季代絵著「フラクタルCGコレクション」の五十頁に載っているプログラム(を少し変えたもの)に従って、その本の五十二頁の上図の再現を試みる。これは平面上の点(に対応する複素数)から出発して、その点に特定の(その複素数を自乗して一定の複素数を加えるとい



無限大を十で近似する



無限大を百で近似する



無限大を千で近似する

ければ出発点を白く、そうでなければ(つまり操作を受けた点と原点との距離がある値を超えれば)黒く色を付けたのが「無限大を十で近似する」図である。

一つ、平面上の出発点の選び方も本来無限個あるが、これも計算機の処理範囲外なので、三つの図では縦四百、横四百、計十六万個の格子点を色分けしているのである。

えども、計算機で得られた数値や画像は、数学的思考を助けたり、それに刺激を与えたりすることもあるであろう。計算機の発達で可能になった「実験数学」あるいは「数学実験」を数学の一分野として老舗の数学の中に取り込んで初めて数学のより豊かな発展が得られるのではなからうか。

老舗の数学

るが、真ん中の図の中央に現れた「蟹」の足の付け根が、下の図では痩せてちぎれそうになっている。

反復回数を一万に上げるとどうなるか。時間さえかければ計算機は何らかの結果を描くであろうし、その図は千の場合とよく似ている。しかし一万といえども所詮は有限である。そして

といった問題を調べるのである。ところがこのようなことを論じたフランスの数学者がいたのである。しかも、計算機が世に出るはるか以前、ワイルの本が出る数年前に。その数学者に因んで、白い図形と黒い図形の境界をジュリア集合と名付けている。

無限を思う数学者は恐ろしい存在に見え、そして無限を有限と峻別する(老舗の)数学には近寄り難いものがある。しかしたとえ有限回の操作とい